

群馬県議会 リベラル群馬

街頭演説1700日
県政の革命児!

県議会だより

後藤かつみ

vol.28

発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所
住所 高崎市八幡町800-24
TEL&FAX 027-343-1393
e-mail ccrgoto@af.wakwak.com

http://www.ccrgoto.com/

群馬県のコンベンション施設建設計画とは?

国際会議が可能な「会議施設」と大規模な見本市・展示会が可能な「展示施設」の複合施設を計画

- ① 会議施設 述べ面積 3,400㎡ 述べ収容人数 2,460人
- ② 展示施設 面積 16,000㎡
(さいたまスーパーアリーナ(14,600㎡)より大きい)
- ③ 建設費 280億円(建物のみ。総事業費は未定。
また、近年の建設物価高騰の影響も試算していない。)
- ④ 維持管理費 年間5億円
- ⑤ 年間 107万人の利用者と、経済波及効果 202億円を見込む。
(ただし、利用者数の具体的裏付けはない)

「県民の側」を向いた計画の再検討を求め、執行部が謝罪をするとい

勢に対し批判が噴出し、

の一方、県民に開か

れたいです。

3月議会において、県

の一方、県民に開か

れたいです。

「県民の側」を聞く気はゼロ?



日本を代表する施設、「幕張メッセ」「パシフィコ横浜」を調査。
イメージに反し、厳しい経営実態が浮き彫りに。

「金食い虫」を抱える前に、まず身の丈に合った誘致活動を

「コンベンション施設の効果として必ず「経済波及効果」が持ち出されます。もちろん建設・営業によって潤う企業はありますが、大都市ですら巨額な税負担を県民に強いる「金食い虫」であることも事実です。

後藤は、まず本格的な誘致を行う機関(ビューロー)を早期に立ち上げ、既存施設を活かした身の丈に合ったコンベンション誘致を先行して行うべきと提言しました。

この間の調査の中で、後藤が驚いたのは、日本を代表する「幕張メッセ」「パシフィコ横浜」も経営的には苦戦をしていることです。

「幕張メッセ」は、建設当初こそ6〜7割の高い稼働率を誇り、建設費用を回収できるだけの黒字を計上していました。しかし、その後「東京モーターショー」を東京ビッグサイトに奪われるなど苦戦が続き、近年は3〜4割の稼働率に低迷し、千葉県・千葉市がそれぞれ約7億円、これまで350億円を超える負担金を投じています。

「パシフィコ横浜」も、近年は黒字基調で昨年度も約7億円の黒字を計上していますが、施設単体は大赤字で、隣接するホテルの賃料収入17億円で黒字になっているのが実情です。これまでも累積赤字93億円を市が肩代わりするなどの税金を投入しています。また、建設に要した借入金630億円の返済が20年以上経ても終わらない(現残高約260億円中、180億円の大規模改修を行わなければならない)とのこと。

「県民の側」を向いた計画の再検討を求め、コンベンション対策特別委員会がスタート

建設費はどこまで高騰?

安倍政権以降の公共事業費の増発や、オリンピック特需など、建設需要の増大によるコスト高は今後も続く見通しです。

このような中、各自治体も建設計画の見直しに迫られ、近県事例では、木更津市で新庁舎建設費用が当初の110億円から150億円に高騰することから、建設時期をオリンピック終了後に延期するという計画変更を行っています。

一方、群馬県は280億円という計画当初の数字を見直すつもりは全くありません。都合の悪い情報も含めて市民に正直に示している木更津市の姿勢とは真逆にあると言わざるを得ません。

県民が納税者の視点から計画の是非を判断する重要な材料は「建設費」です。後藤は、この重要な情報を県民に示そうとしていない執行部の姿勢は「県民の側」を向いていないのではないかと指摘したところでした。



県レベルでコンベンション誘致を行っている、「富山コンベンションビューロー」を調査。